

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

口腔癌診療ガイドライン 2019 年版

口腔癌診療ガイドライン改訂合同委員会

一般社団法人日本口腔腫瘍学会ワーキンググループ 1 「口腔がん診療ガイドライン」改定委員会
(委員長: 中村誠司 九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野)

公益社団法人日本口腔外科学会 学術委員会 口腔癌診療ガイドライン策定小委員会 (委員長:
横尾聡 群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面外科学講座・形成外科学講座)

金原出版、2019 年 10 月 20 日 第 3 版 (2019 年版) 第 1 刷発行

■1 檳榔子

疾患:

口腔癌 (危険因子)

引用など:

- 1) 川口浩司, 佐藤淳一, ほか. スリランカの農村部における口腔がん検診、予防指導の長期経過報告 —口腔がんとビンロウ噛みの習癖の関係—. *国際保健医療* 2003; 17: 16-21.
- 2) Khanna JN, Andrade NN. Oral submucous fibrosis: a new concept in surgical management. Report of 100 case. *International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery* 1995; 24: 433-9.

副作用に関する記載ないしその要約:

『喫煙は口腔癌における最大の危険因子と考えられている。南アジア諸国では全癌の約 30%を口腔癌が占めているが、これは檳榔子 (ビンロウジ) などの噛みタバコの習慣によるものが大きいとされている。』